

## 全体会より

### 1) 教育学部長挨拶

弘前大学教育学部長 小澤 薫

今年初めて、教育学部独自の取り組みとして、「人・夢・育み」のテーマを掲げ、「教育フェスティバル2001年」という一連の行事を計画し実践しています。21世紀の新しい教育をどのようにして作り上げていくかを課題とし、教育学部、4つの附属校・園、それから教育実践総合センターが融合一体化して、一つの教育のあり方を作り出そうという考え方に基づいています。今日も、附属4校園の園児・児童・生徒を含めて一つの集団になって、人間形成の活動を行っています。

その一貫として、このフレンドシップ事業のシンポジウムを今ここに設定しました。この事業は、平成9年度から国家が予算をつけて始まった事業であります。本教育学部におきましては、平成10年度から計画書を出して予算をいただき参加していますので、その意味では今年が4回目ということになります。これは教員養成大学・学部



に学ぶ教師を志す若い人たちが、子どもたちとの交流を通して子どもを理解すると同時に、どのような援助の方法で子どもの手助けになるのか、を実践的に学んでいきます。そしてそのためには、教育委員会、学校、それから地域の保護者の皆さん、そして大学の4者が連携して次の世代の教師を作り、それと同時に交流を通して、子どもたちも育っていただくという事業であります。そのことをお願いしたところ、教育委員会から非常にご理解をいただき、あるいは、各学校もこのお話をご理解いただいて、お力を貸して下さったわけでありまして。一つは弘前市立中央公民館の子ども会研修会と連携したふれあい自然体験活動があります。そして、平成10年度からもうすでに4回目に入るわけですが、弘前市の学校適応指導教室の通級児童生徒に対するふれあい支援活動があります。これは教員を目指す学生にとっては貴重な機会であり社会的にも意味があります。しかし長期的な活動が必要で文部省も実施可能か心配していました。そのようなわけで最初の年には新聞に相当取り上げられました。今は各大学で相当行うようになりましてけれども、本学がその先鞭をつけて、一つのモデルを全国的に示した活動であると申し上げても、それほど過言ではないと思います。3つ目の事業は第三大成小学校のご協力を得まして、ふれあい体験活動のテーマで取り組ませていただきました。このシンポジウムも、当初のころは相当教官側のほうで手助けをして実施してきたのですが、今年とはとにかく学生の自主性ということを尊重して実施するとセンター長から聞いております。その点でも充実してきたし、だんだん学生に任せて一人歩きできるような状況になってきたのではないかと、さすが4年間もやればそれぐらいに成長するかというふうに考えているわけでありまして。いずれにいたしましても今日基調講演もありますし、みなさんの発表もあり、また関係していただいた先生方からの講評等もあるわけですから、是非これらを次の活動に活用していただきたいと思いますと考えております。

学生諸君が子どもの成長の援助者として成長し、子どもたちとともに学びながら成長することを願い、かつ今までご協力をいただきました諸機関、諸先生方に本当に心から御礼

を申し上げます、ご挨拶と致します。